

平成22年度の塩田地域内「わがまち魅力アップ応援事業」

この事業は平成20年から始まり、地域の課題解決や活性化のために、自主的・主体的に取り組む地域づくり活動を補助金により応援しております。下記は22年度に採択され活動しました「わがまち魅力アップ応援事業」です。

◆個性あるふるさとづくり事業一覧表

事業名	自治会名	事業内容
文化に楽しむ会	五加	住民の拠り所である自治会館で文化活動を行い、「文化かる五加自治会」を形成していく。 ・音楽会の開催 ・落語会の開催
下本郷地区 花と緑の街づくり	下本郷	道路沿いや自治会施設を花等の植栽をし、その作業を通して子供からお年寄りまでふれあいと活性化と環境美化に寄与する。 ・8000本植え付け、除草等 ・年間管理を行う
西行塚を中心とした歴史遺産を活かしたふれあいの里中野自治会	中野	昔から伝わる行事・歴史遺産を整備し、学び、伝えて、その価値を再認識し、地域への愛着や一体感を醸成する。 ・西行塚参道の植栽整備 ・地域の歴史についての講演 ・会の開催 ・「中野の歴史」出版
独自の歴史文化を共有し、引き継ぐ交流のまち奈良尾自治会	奈良尾	生活情報から歴史資料等をデジタル情報化・マップ化し、区民全体で共有し、交流を深め「ふるさと共同体」として連帯と活性を取り戻し、地区外にも発信していく。 ・様々な情報、歴史資料のデジタルベース化とマップ化 ・マップ資料の活用による年代を超えた交流機会の設定
農地の荒廃をなくし、そば生産による自治会の活性化	富士山中組	遊休農地を荒廃させないため、そばの栽培を行い、後継者へ引き継ぐ。子供達への農業指導や収穫後「そば祭り」を開催し、融和、活性化と地産地消の推進を図る。 ・そば祭りの開催
みんなで進める身近な生き物調査・自然豊かな地域づくり事業	セレーノ八木沢	地区内の身近に生息する動植物を知り、活動や追跡調査を子供達と行うことで、自然を知り、心の豊かさ、ふるさと意識の醸成を図る。 ・研修会、調査、鳥の巣箱設置、モニタリング等 ・花壇の完成
ふれあい・助け合いの郷下之郷自治会をIT技術導入で実現	下之郷	歴史遺産、自然などの地域資源データをデジタル化し次世代に継承し、「ふれあい・助け合いの郷」を作っていく。 ・住宅基本図のデジタル化 ・助け合い防災マップの作成
西前山地区的地形を活用した地域愛あふれるアヤメの里事業	西前山	総延長1500mの農道脇等にアヤメを植栽し「アヤメの里」を造る。その共同作業により絆や結束力を高め、ふるさとを愛する心を育み、重要な文化財やマレットゴルフ場に訪れる方へ「おもてなし」の実現を図る。 「アヤメの里」づくり

◆特色あるまちづくり事業一覧表

事業名	団体名	事業内容
塩田平札所めぐり 興隆事業	塩田平札所めぐり 興隆会	札所めぐりを復活させ、塩田の文化と伝統に触れるお遍路や講演会等の実施により、心の安らぎ、先人の残した文化、伝統を再認識し、塩田平の振興に資する。 ・札所に案内板の設置 ・札所めぐりの実施 ・講演会の開催等
地域の遊休荒廃農地を復元し、癒しの空間と安全安心な環境をつくる	鈴子健康栽培クラブ	地域の遊休農地を借り、復元するため、大勢の散歩道である来光寺池周辺に菜の花を作付け、休憩所を設置し、癒しの空間づくりを行う。 ・耕地面積9700m ² の維持管理 ・あずま屋の修理 ・畑の拡大等

編集後記

初めて新聞の編集をお手伝い致しました。21年度までは委員の皆様の手作りでなされたとの事ですが、22年度からは印刷がカラーとなり、内容も一層充実した新聞が出来て、見た目も美しい紙面になりました。

塩田地域協議会だより

第6号	平成23年3月16日発行
発行元：	塩田地域協議会
事務局：	塩田地域自治センター
☎	38-3000

「地域まちづくり方針」の見直しについて

日本のまん中人がまん中生活快適都市上田を目指すとして、平成20年から平成27年までの第一次上田市総合計画の前期3年の計画をもとに、後期基本計画に盛り込む、塩田地域の「地域のまちづくり方針」の見直しの協議を行っています。我が地域は、数多くの史跡・文化財の集積、塩田平の持つ田園風景、更には別所温泉、ヒ豊富な資源に恵まれています。そうした資源を見つめ直して、貴重な財産を活かしてゆくために観光を始め農林業等多様な産業間の連携や地域内外の交流を促進して、歴史・自然、生活が調和した安心、安全な交流拠点のまちづくりを進めるために、待望久しかった、塩田地域コミュニティ施設の整備も進み、昨年11月には、地域自治センター、塩田公民館の機能を含めた複合施設として活動拠点の整備がされました。積年の想いのこの施設を、地域住民の皆様が賑やかに集い、親しみやすい活動拠点として活用していただくために、住民の皆様から御意見をいただき、よりよい地域づくり、まちづくりに向けて、7つの項目を基本に見直しを行っています。

方針の1 地域コミュニティ施設の活用 2 地域特性を活かした観光の推進 3 緑農ゾーンの整備促進 4 大学・研究施設と地域社会の交流の促進 5 計画的な土地利用の促進 6 文化的で健康な生活を営むまちづくり 7 安心・安全で快適な生活環境の実施

以上の内容を自治会や地域内各種団体の皆様と意見交換を行い、上田市に答申をして参ります。

塩田地域協議会

塩田地域自治センター リニューアルオーフェン

地域住民の永年の悲願でありました塩田地域自治センターの整備事業は、昨年4月に公民館部分が供用開始となりまして、連日多くの皆様に御利用いただいております。また、地域自治センターにおきましては、同年11月15日から新たな施設で業務を開始したところであります。

新たな地域自治センターは、「地域活動の拠点、世代を超えて人が集う総合コミュニティセンター」として支所機能、公民館(解放会館)機能、母子健康センター機能に加え、新たにまちづくり活動拠点会議室の他、観光(市民)トイレを設置しており、この地へ多くの観光客にお越しいただきたいと考えております。また、塩田平土地改良区と商工会議所塩田支所も併設しており、利用者の利便性を高めた作りとなっております。

地域自治センターは、地域内分権を推進するために中心的な役割を果す施設となりますことから、新設したまちづくり活動拠点会議室を、活力あるまちづくり活動に大いに活用されることを期待しております。整備事業では現在、外構工事を実施しております、駐車台数約60台のほか施設の中心部分にイベントの出来るスペースや芝生広場を設ける予定でありますので、子育てなどに大いに活用されることを期待しております。

さて、市町村合併により誕生した塩田地域協議会は、分権型自治の実現を目指して、第一次上田市総合計画に定める「地域まちづくり方針」を具体的なものとして安全、安心な地域づくりを目指して、関係する団体や住民の皆さんと連携を図りながら、誰もが「塩田地域に住んでよかった」と言われる地域を目指して活動を展開しております。

具体的には、少子高齢社会の中にあって、「向こう三軒両隣」がいきづく地域づくりや公共交通の充実など地域福祉の推進を目指しております。住民の皆様の御意見などをお聞かせいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

協議会活動報告

第3期地域協議会は、昨年4月から新しい委員でスタートして、5年目を終わろうとしています。

11月には、塩田地域自治センターの建物が完成して、明るく広い室内は住民の憩い所となりました。現在は外構工事が進められています。

専門委員会では、それぞれ特徴ある活動が行われています。
11月には、栃木県の栃木市大平町の地域協議会委員15人と事務局3人の観察を受け入れて、活動状況などの情報の交換を行いました。

今年度の主な協議事項は次のとおりです。

- 平成22年5月 専門委員会の設置
- 10月 地元市議会議員との懇談会
- 平成23年3月 わがまち魅力アップ応援事業の審査
- 自治センター整備事業について 2回
- 別所線電車の存続について
- 地域協議だより全戸配布 2回

以下は各専門委員会の報告です。

◇ 地域振興委員会

少子高齢化の進む中で、ひとり暮らしの高齢者、高齢者世帯や障がいのあるなしにかかわらず、互いに支え合う社会が今程求められているのではないでしょうか。そのための支え合いをどうすればよいのか、買い物難民と言われる交通弱者の問題等を、様々な機関と意見交換をして、情報提供が出来まちづくりを目指し、活動に努めます。

委員長 南雲 典子

◇ ため池活用委員会

塩田平のため池群は、今から350～400年前に築造され、江戸時代には塩田三万石といわれた上田藩の穀倉地帯であります。この歴史あるため池には、池の由来や民話、貴重な昆虫の生息地として豊富な話題やエピソードが沢山残されています。

昨年私たちため池活用委員は、数回にわたり塩田平ため池群を巡ってまいりました。改めて「こんなところにこんな素晴らしい池が」と一同感嘆したところです。

ため池の水面に独鉛山の勇姿が浮かび、四季折々の景観が眺められる甲田池、上灌池、手洗池、そして保野加古池の満開の蓮、秋の別所温泉幕宮池は一帯の公園が整備され紅葉が目にしみます。めったに足を踏み入れない山田の竜王池の高台から一望する塩田平は、まさに天下一品の絶景と言えます。

こんなに素晴らしい塩田の宝“ため池群”を大勢の皆さんに知って見てもらい、後世に伝承するそんな活動ができます。

されど願っております。

委員長 中村 保人

塩田平のため池群調査結果

魅力あるため池ベストテン（順不同）
沢山池（野倉） 北之入池（富士山）
手洗池（古安曽） 小島大池（小島）
山田池（山田） 舌喰池（手塚）
幕宮池（別所温泉）

甲田池（十人）
加古池（保野）
塩吹池（保野）



◇ 地域交通委員会

地域交通委員会としては、安全で安心な地域社会の実現を目指す中で、「塩田地域内の公共交通機関の充実をどうしたら良いか」を最大のテーマとして活動してまいりました。別所線電車存続を核にして東塩田・西塩田方面へのバス路線の確保と利便性を図るべき住民意識の高揚を高めて今後は、各自治会等でも大いに論議して欲しいと思います。関連して、千曲川左岸の自治会連合にも声をかけて輪を広げ、上田電鉄やバス会社、民間諸団体、行政とも懇談会等計画して、具体的な活動を続けていきたいと思います。

委員長 囲村 敏

塩田平の民話・伝説シリーズ その1

舌喰池（したくいけ）

この池は「大池」とも呼ばれています。「舌喰池」と呼ばれるようになったのは、次のようない悲しい物語があるからです。



この池が新築される時、土手から水が漏れて水を溜めることができませんでした。この時、生きた人を土の中に埋めて祈ると、土手が固まるという話が、どこからともなく伝わってきました。領主からの命令で、困り果てた村役人は「人柱」を立てることにしました。だれを人柱にたてるか、困り果てたあげく、くじ引きで決めることになりました。くじ引きの結果、村に住む若い娘さんに決まりました。あまりの悲しさに、人柱に立つ前の晩、その娘さんは舌を食いちぎり池に身を投げて死んでしまいました。この悲しい出来事があつてから、池は立派に出来上がりました。村の人たちはこの池を「舌喰池」と呼び、今でも犠牲になつた娘さんを顕彰して感謝しています。ため池の土手を築く時、大変な困難を伴うことを語り伝えています。

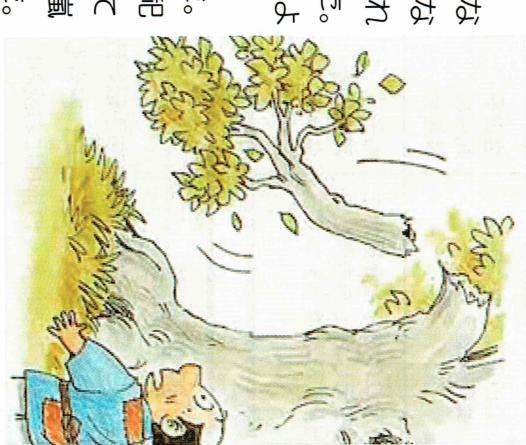
手洗池（てあらいいけ）

手洗池は、承応3年（1654）に築造されたと伝えられています。山麓に築かれ、池の形は長方形で、その三方に築堤されています。この字型

伝説があります。昔、雷山の麓に大きな築堤の代表的なものです。



手洗池の名の起りには、次のような伝説があります。昔、雷山の麓に大きな櫻の木がありました。この櫻の枝が折れると、嵐で人家や山野が荒らされました。村人は大櫻に差し障りがあると考えるようになりました。



ちょうどその時、木曾義仲の臣・手塚太郎金刺光盛が通りかかりました。早速相談をしたところ、「櫻を切り倒すので御神木とし、そこに神様を祀るがよい」と言われ、光盛が近くの池の水で手を淨め、櫻を切り倒してくれました。そのとおり村人が神様に祀ると、それからは恐ろしい大嵐はなくなりました。光盛が手を淨めたので「手洗池」と名付けました。

塩田再発見 - 手所を巡って -